

平成 22 年 4 月 26 日現在

研究種目：若手研究（ B ）

研究期間：2007 ～ 2010

課題番号：19791773

研究課題名（和文） 心理教育的手法を用いた精神科看護師教育プログラムの開発

研究課題名（英文） Development of Education Program for Psychiatric Nurses using Psychoeducation

研究代表者： 香月 富士日（KATSUKI FUJIKI）

名古屋市立大学・看護学部・准教授

研究者番号：30361893

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・地域老年看護学

キーワード：精神科看護師・ストレス・ストレスマネジメント・心理教育・認知行動療法・エンパワメント・看護師教育

## 1. 研究計画の概要

私たちは心理教育や認知行動療法の各要素を精神科看護師教育へ応用することで、より効果的な教育プログラムができるのではないかと考えている。研究目的は、精神科看護師に対して、認知行動療法や心理教育的手法を利用したエンパワメントプログラムを行うことで、精神科看護師の精神的健康度や気分などが改善するかを検証することである。

## 2. 研究の進捗状況

平成 19 年、20 年の準備を経て、平成 21 年度は、心理教育的手法を用いた精神科看護師教育プログラムを開発するための、パイロットスタディとして、対照群を置かない介入研究を行った。

研究は、精神科看護師に対して認知行動療法や心理教育的手法を取り入れた構造化されたストレスマネジメント・エンパワメントプログラムを行うことで、気分や精神的健康度などの心理的負担が軽減するかを実証的に示すことを目的とし、精神科看護

師 15 名を対象に介入を行った。プログラムは、2 週間に 1 回、全 3 回行った。1 回は 2 時間であり、2 時間のうち前半 30 分は講義形式で、それに続いて 90 分のグループディスカッションを行った。3 回の講義では、1 回目の内容は、ストレスについての全般的な知識提供と精神科看護師特有のストレスについてなどであり、2 回目は、認知と認知行動療法についての知識提供と認知再構成の演習などである。3 回目は、コーピングについての説明と、アサーションの説明および演習である。

介入の結果、精神的健康度を評価する K6 については、介入前後を比較したところ有意に改善しており(Paired t-test,  $P=0.014$ )、1ヶ月後の得点についても、介入前に比較して十分な改善傾向があった( $P=0.05$ )。看護師の患者に対する感情態度を評価する NAS については、下位尺度の「敵意」において、介入前後を比較したところ有意に改善しており( $P=0.036$ )、それは1ヶ月後の得点についても、介入前に比較して有意な改善が継続していた

(P=0.041)。

これらのことから、精神科看護師が今回のプログラムに参加することで、看護師自身の気分や精神的健康が改善されるだけでなく、患者ケアへも良い影響があることが示唆された。

### 3. 現在までの達成度

#### ②おおむね順調に進展している

理由：現在までにプログラム内容がほぼ確定し、パイロットスタディにより効果も検証できている。残りの1年で、さらに信頼性の高い研究デザインを用いて効果検証が出来るため。

### 4. 今後の研究の推進方策

昨年度までは、パイロットスタディとして、対照群は置かず小規模の対象で開発したプログラムを用いての介入を行った。その結果、有意に看護師の精神的健康と患者への感情態度が変化することが示された。今後の研究目的は、昨年行ったプログラムを改善し、さらにRCT（無作為割り付け比較試験）を用いて対照群を置くことで、最終的なプログラムの効果を評価する予定である。

### 5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 0 件）

〔学会発表〕（計 0 件）

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

○取得状況（計 0 件）